

スカウトの日について

今年度も「スカウトの日」が全国各地で行われました。

昭和49年(1974年)、北海道千歳原での第6回日本ジャンボリーで開催された「第1回シニアスカウトフォーラム」では、テーマ「より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか」について討議が行われました。そこで、全国一斉で活動を行う「スカウト奉仕の日」を定め、奉仕を通じてスカウトの“ちかいかいとおきて”を実践する運動を展開することが決議されました。

スカウトの日は、この決議を尊重し、「スカウト週間」に奉仕を重点的に取り上げることが定め、昭和50年(1975年)から始まったものです。

スカウトの日は、さまざまな活動を全国で一斉に行うことで、スカウト運動が地域社会に根差した実践活動であることを広く社会に知ってもらうことを目的としています。

昨年度の100周年記念事業で実施した「プラごみバスターズ大作戦」を、引き続き今年度のスカウトの日のテーマとして設定しました。

今年度は、3年余り続いた感染症対策も一つの節目を迎え、全国のスカウトが大いに活動できるようになりました。そのような中で、「日々の善行」の一環として、全国の加盟団において隊のスカウトや指導者が、さまざまな社会貢献活動を実施しました。昨年度実施したプラスチックに目を向けたプログラムや、従来の植樹、森林や海・河川の美化活動など、9月の集中実施日を中心として広く活動が行われました。

そのような中で、世界共通の目標であるSDGsの達成に向けてスカウトとして貢献できる多くの活動が展開されました。

ボーイスカウト日本連盟が創立して101年目の新たなスタートを迎えました。テーマを新たにこれからも「スカウトの日」の活動は続きます。



2023年度

スカウトの日 実施概要

◆主旨

全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が、奉仕活動としてさまざまな社会貢献活動を全国の各地域において一斉に展開し、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献することを目的とする。

◆概要

- 事業名：2023年度「スカウトの日」
- 実施日：2023年9月18日（祝・月）
- 実施場所：全国各地
- 主催団体：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
- 協賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- 後援：文部科学省、環境省、こども家庭庁
- 実施内容：環境保全・環境美化活動、敬老の日等に沿った社会奉仕活動
一般児童を招待して展開する活動、国際貢献に関する活動
災害復興支援活動、各団・県連盟の状況に応じた活動
- テーマ：プラごみバスターズ大作戦
※当連盟100周年事業「プラごみバスターズ大作戦」は終了しましたが、プロジェクト名を今年度のスカウトの日のテーマとして活用し、例年の「スカウトの日」の取り組みを行いました。

◆2023年度の取り組み

●2023年

- | | |
|----------|--|
| 4月下旬 | 日本連盟Webサイトで、2023年度「スカウトの日」の情報を公開 |
| 5月中旬 | プログラム委員会にて事業内容、展開方法・活動資材の確定 |
| 5月下旬 | [scout-project.jp]の更新、日本連盟Webサイトで活動資材の告知 |
| 6月中旬 | 県連盟経由で2023年度実施要項を通知 |
| 7月上旬 | プログラム委員会にて活動資材の準備状況確認・業者選定 |
| 7月下旬 | 参加申し込み団への通知と実施報告提出の依頼連絡 |
| 8月中旬 | 全県連盟へ活動資材送付、参加申し込み団へ報告依頼と活動資材送付 |
| 9月18日 | 「スカウトの日」実施 |
| 11月15日 | 実施報告書（インターネット回答）の日本連盟提出締め切り日 |
| 12月6日～8日 | エコプロ2023にて「スカウトの日」事業を一般に広く周知 |
| 12月下旬 | 実施報告書の最終集計、製作作業開始 |

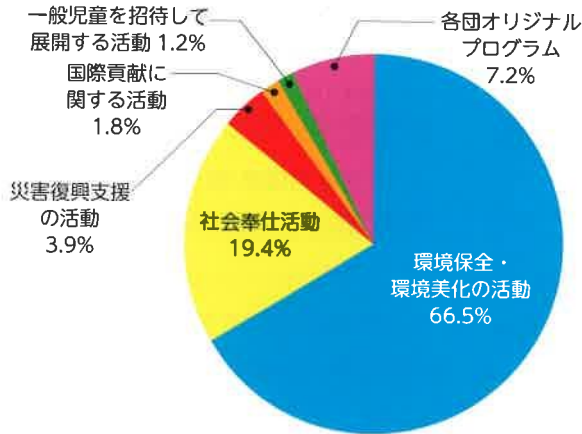
●2024年

- | | |
|------|------------------------------------|
| 1月中旬 | プログラム委員会にて事業内容の評価・反省、次年度の取り組み内容の検討 |
| 2月中旬 | 2023(令和5)年度実施報告書を送付予定 |

2023年度「スカウトの日」活動成果

実施プログラム内訳 (構成比)

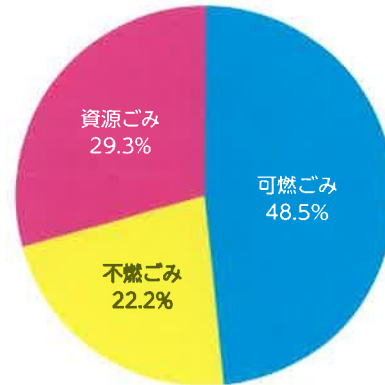
計: 568件



※2023年度は、清掃活動だけというよりも例年並みに、奉仕活動やオリジナルの活動が行われたが、割合で見ると大きく変化している様子はなく、やはり50年続く、環境保全・美化活動への関心が高いことがうかがえる。

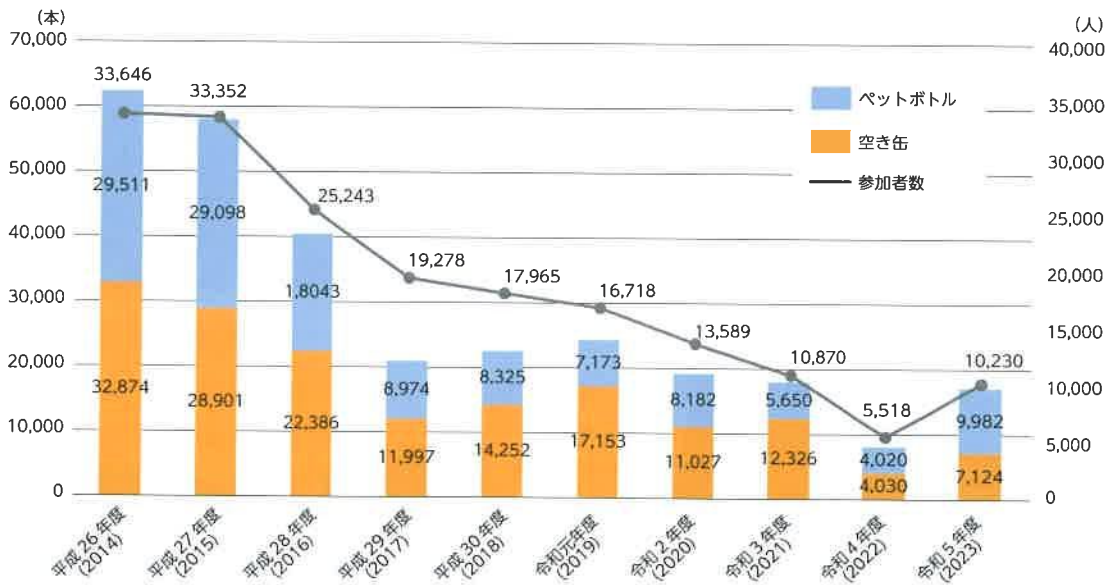
回収ごみの種類別内訳 (構成比)

計: 3,655袋



※2023年度は、5月に活動に関する規制の緩和がなされたことから、活動の実施率が向上、中止する団も少なく多くの団が活動を実施した。多くの活動がなされた分、残念ではあるがごみも多く回収することができた。

回収空き缶・ペットボトル数の推移と参加者



※空き缶については、アルミやスチールなど分別せずに集計した。

※日ごろの清掃活動の実施や意識変容による投棄ごみの量は年々減少傾向にある。

※2022年度は、別事業によるごみ数量のカウントも行ったため、回答数が大きく半減している。

スカウティングとSDGs

— 一緒に行動しよう！ 持続可能な社会のために —

持続可能な開発目標（SDGs）は、「leave no one behind（地球上の誰一人として取り残さないこと）」を目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき17の目標と具体的な取り組みである169のターゲットによって構成されています。

今号では、新たな環境教育プログラム「Earth Tribe（アース・トライブ）」のプログラムの一つ、プラスチックチャレンジについて、スカウトの日における“河川や海岸”でのスカウトの活動に焦点を当てます。



地域の課題から考えよう

自分たちの海や河川を元の姿に戻す

環境への影響

「水の惑星」と呼ばれる地球は、その面積の70%が海や川などの水で覆われており、生物が生きるための水や食べ物など、多くの恵みを受け取っています。しかし、私たちの出すゴミや排水により、その海や川が汚れています。これは世界の問題であると同時に、日本でも大きな社会課題の一つです。



また、近年では外来生物による生態系への影響も問題になっています。河川流域での外来水生植物の増殖やそれに付随した動植物への影響により、河川の姿が変わっています。

スカウトの取り組み

河川の流域や海辺を活動エリアとする隊や団では、スカウトの日の活動において、プラスチックなどの漂流ゴミや流木の撤去、NPOと協力した外来水生植物の調査と撤去などを行っています。こうした活動は、毎年取り組みを継続することで、スカウトが社会課題をしっかりと認知することにもつながっています。

活動の発展



東京・狛江第1団

プラスチックゴミ一つから、自分たちの地域の美化活動ではなく、河川を通じて海や地球そのものを大切にしていく視点を培うことにつながります。さらに、外来水生植物を通じて、地域に根付いている動物や植物を調べるなど、自分たちの地域について知る機会にしてみましょう。

3つのステップで取り組もう

環境教育プログラム「Earth Tribe」は、それぞれの問題や取り組みについて、スカウトが「知る」ことから始まり、周りの人と「協力」して自分たちにできることを「実行」するまでをひとつの挑戦として3つのステップを設けています。



香川・観音寺第5団

プラスチックチャレンジ「Plastic Tide Turners」の事例から、下記のステップを参考に取り組んでみましょう（BVS,CSはどれか1つ、BSはそれぞれ2つ、VS以上はすべてに挑戦してみましょう）。

Hop! 環境について「知る」

- 1 スマートフォンやパソコンで「プラスチック 汚染」と検索して表示される写真を見て、自分たちが使っているプラスチック製品があるかを探す。
- 2 日常生活でプラスチックゴミが発生する場面を想像し、その内3つ減らす方法を考える。
- 3 自宅の庭や許可を取った場所に穴を掘り、日常生活で出るゴミ（紙、野菜の切れ端、ビン、ペットボトルのラベルなど）を埋めて、1か月後の変化を観察する。

Step! 地域社会と「協力する」

- 1 家庭で出るプラスチックゴミを使って、隊や団の仲間と協力してアート作品を作る。
- 2 海や河川を元の姿に戻すことをテーマにしたポスターを作り、団の活動場所に掲示する。または、環境作品の展示会等に応募する。
- 3 海や河川をきれいに保つための方法を考え、地域の団体や成人の支援を受けて、市民の声を届ける制度を利用して提案する。

Jump! 自分たちで「実行する」

- 1 多くの人々の協力により海や河川がきれいであること、飲み水が自由に得られることに感謝する。
- 2 自分の住む地域のほか、海や河川をきれいに保つための美化活動を自分たちで企画して推進する。
- 3 自分たちで考えるプラスチック削減のための行動を1か月間継続し、結果を隊や団で発表する。



わたしたちの地球を守ろう ~Earth Tribe

<https://www.scout.or.jp/member/earthtribe/>

各年代において取り組む内容やその難しさは異なります。それぞれ、自分たちにできることから始めてみましょう！

スカウティングとSDGs

— 一緒に行動しよう！ 持続可能な社会のために —

今年度を通じて、新しい環境教育プログラム「Earth Tribe (アース・トライブ)」について掲載してきました。プログラムの実践を通じて地域の課題を見つけ、その課題に取り組むことがSDGsの達成に繋がります。私たちがなぜ地球のためにアクションを起こさなければいけないのか、Earth Tribeを活用して環境について考えながら、団や隊の活動を活性化していきましょう。各種バッジの着用位置や記事の取り扱いと合わせてプラスチック課題に関する取り組みを紹介します。



健康な惑星のために

Earth Tribeを通じて、多くのプラスチックが使われる社会に対しての問題意識を改めてもってみましょう。

日常生活を送るうえで、プラスチック製品を使用する機会は多くあると思います。プラスチックは軽さや丈夫さ、扱いやすさなどから重宝されるとも便利な素材ですが、その一方で海洋ごみやマイクロプラスチックとして海を汚染してしまう問題を抱えています。

便利であるからこそ、適切な方法で利用し、プラスチックを使い捨てずにリサイクルする方法はないのか、代替品の活用はできないのか、問題意識をもって行動することが求められています。

地球が健康な惑星であるために、あなた自身が行動を起こし、汚染問題に取り組みましょう。

【実例】ごみアートを作ってみよう

ごみアートとは、集めたごみを洗浄・消毒し、それらを素材として使用した作品です。

ごみ拾いをするだけでなく、拾ったごみをアート作品にすることで、スカウトが楽しみながらごみ問題についてことができます。

また、ごみアートは作るだけでなく、作品を見せることで多くの人に環境問題について考える機会を提供するという効果もあります。ぜひ活動に取り入れてみてください。



大阪・堺第25団
宮本佳奈ローバースカウト

「プラスチックごみがどうして有害なのか、海について、地球について、考えるきっかけになります。これからの未来を生きる子どもたちが、生き抜くための力と知識を養うきっかけになるプログラムです」

記章類の着用

Earth Tribeでは、①知る ②協力する ③実行するのステップでプログラムに取り組めます。最初の「知る」のステップが完了したら**Earth Tribe バッジ**を、続いて「協力する」「実行する」の細目を履修すると、プログラムごとの**チャレンジバッジ**を制服に着用することができます。

環境プログラムに取り組む意思表示としてバッジの取得を目指して、プログラムに取り組みましょう。



チャレンジバッジ

すべての年代で共通のバッジ。スカウトのみが着用することができ、制服右袖もしくはタスキに、他の選択課題を含めた取得順に着用します。プラスチック、ネイチャー、エネルギーの3つの章に挑戦できます。



Earth Tribe バッジ

制服左胸ポケットの上方に着用します。100周年記念章を制服の外側に、Earth Tribe バッジを内側(制服中心部側)に並列で着用します。



* Earth Tribe の各種記章類は、4月より販売を開始します。品名、価格などの詳細については、日本連盟 Web サイトをご確認ください。

* 世界スカウト環境プログラムは、2022(令和4)年3月末日をもって終了し、4月から本プログラムに移行します。すでにバッジを取得しているスカウトは、上進するまで着用を継続することができます。

プラごみバスターズになろう!

1



え、これはなに??



2

これはね、まんなかにいる
さかなと、おなじおもさの
プラスチックごみだよ。

このままでは、うみは2050
ねんには、さかなよりもごみ
の方がおおくなってしまうと
もいわれているんだ!!



3

しかもこまったことに、プラスチック
はくさったりしない。たとえばペット
ボトルは400ねんたってもそのまま
で、うみをただよってしまうんだって



そんな!
なんとかでき
ないの?



4

ところで、なんでそんなに
うみにごみがあるの??

いいしつもんだね。
このごみを「はぐれ
プラごみ」となづけて、
まずこのごみがどこ
からきたのか、かんが
えてみよう!



ビーバースカウト・カブスカウトのミッション!

「はぐれプラごみ」がどうしてうまれるのかしらべ、
じぶんにできることをかんがえよう!

ねんに1かい、まちにおちているごみをひろうだけでは、「はぐれプラごみ」のもん
だいはなくなるらない。

「はぐれプラごみ」がどうしてうまれるのか、りゆうをかんがえてみよう。そして、ごみ
がはぐれないように、まいにちできることをやろう! はぐれプラごみのもんだいを
「もと」からなくすのが「プラごみバスターズ大作戦」だ!

